遺族のひとりとして　　**裾野市遺族会　横山清美**

昭和 18 年 3 月 3 日、夫の父重利は駆逐艦〝朝汐〟乗船中ニューギニア方面にて敵弾を受け〝朝汐〟と運命を共にしました。遺児である勝利（私の夫）は父の戦死後、同年 7 月 30 日埼玉県にて生を受けました。母は勝利が三歳の頃、中清水の重利の両親に託し実家に戻りました。その後、勝利は祖父母のもと成長し、小学生の頃より伯母を母と慕い従兄や従姉達に弟としてかわいがられ、生活の全てをお世話になって成人となりました。私と結婚し苦労もありましたが幸せな生活を送りました。

夫は平成 6 年厚生省の援助を受け、静岡県の代表としてニューギニアの慰霊団に加わり父の顔も知らず慰霊の為旅立ちました。洋上での慰霊祭では〝お父さん、一緒に日本に帰ろうよ〟と涙して大声で叫び続けたそうです。

その夫も大病を患い、平成 17 年 11 月 26 日薬石効無く温厚と実直さを惜しまれながら 62 歳で私達家族のもとから、父の待つところに旅立ちました。〝行く先に未だ見ぬ父の待つものを〟と墓誌に刻みました。

戦後 77 年の歳月が経ち、戦争の悲惨さを知らない若者達が多く、仕方のない実情ではありますが、現在の私達が幸せで、平和な生活が維持出来ることは、戦争で無念の犠牲者があるものと常日頃考えます。

今後も遺族のひとりとして息子達に祖父重利のこと、父勝利の悲しい思いを忘れないよう、引継いで行くことを誓います。